

§管理薬剤師研修会での早川 教授による症例検討会の感想

管理薬剤師研修会において

北海道薬科大 早川 達 教授による症例検討会の研修を行いました。

2010年11月10日茨城県市町村会館において、全店舗の管理薬剤師が集まったの管理薬剤師研修会が行われました。

午前の部は経営状況の報告があり、午後の部に “演題「次世代の薬剤師・薬歴管理のあり方」- 服薬指導から患者マネジメントへ- ” というテーマで、北海道薬科大 早川 達 教授をお呼びして、症例検討会の研修を行いました。当社管理薬剤師の他に、現在当社に実務実習に来ている学生3名や地元の調剤薬局の薬剤師も招いて行いました。

当社の管理薬剤師には、早川教授の北海道薬科大学POS研究会に参加しているメンバーもいますが、大半は初参加で皆さん緊張した雰囲気が始まりました。

まず、薬歴の演習から始まり、用意された処方箋と初回質問表を見ながら、初回患者情報の把握とプロブレムの洗い出しを行いました。

自分は聞き取り事項はいくつも出しましたが、プロブレムリストを抽出するとなると、うまく考えがまとまらず、逆に聞き取り項目になってしまうなど、うまくリストを抽出することができませんでした。

次に、オーデットの方法演習を行いました。当社店舗の実症例を用いて、処方歴・薬歴を見ながら、その患者のより良いケアを行うために、実施したケアが適切であったかを薬歴から振り返る作業(オーデット)をしました。その後に事前に配られていた実症例を用いた症例検討(カンファレンス)が行われました。

今回、参加人数も症例検討会としては異例の多人数だったので、様々な指摘・意見が出ました。自分は全身全霊を集中して聞いていることが多かったです。

早川先生の講義の中では、薬歴の問題点として、指導が漠然として継続性がない。その場限りの対応。今後の患者ケアプランに結びつけてない。患者ケアに責任をもって、患者の病態から薬物治療の原則を考えられるように訓練をして下さい。ということを指摘していました。自分にとっては耳が痛い事ばかり指摘された感じでした。

最後のまとめでは、次世代の薬剤師・薬歴管理の業務アップとして、

- ・患者マネジメントの概念による薬歴管理の実践
- ・日常的な、または定期的なオーデットの実施
- ・標準症例を用いたスキルの向上

などを実施していくことであるということも挙げてました。

今回の症例検討会は4時間行われましたが、早川教授の流れるような進行により、あっというまに終了してしまいました。

今回の研修を受けて、薬歴管理には患者をどうケアしていくか、処方監査や服薬指導以外に、患者からの聞き取りによる個別状況の把握と薬学的問題点(各疾患のガイドラインに沿った薬物治療監査)の抽出・解決の対応をもっと中心に考える必要があります。

今後、日常業務において普段から薬歴管理の実践を積みながらやらないと、なかなか患者ケアの実践スキルをアップすることはできないと考えられます。

参加された方々は今回の症例検討会を受けて、次回もまた早川教授による症例検討会を受けたいと思った人は少なくないと思います。

飯田店 佐藤